

会議概要

- 1 審議会名 上田市子ども・子育て会議
2 日 時 平成25年12月13日 午前・後 1時00分から午前・後 3時00分まで
3 会 場 ひとまちげんき・健康プラザうえだ
4 出席者 金山会長、堀江副会長、飯島委員、大塚委員、神原委員、小池委員、清水委員、
下村委員、田口委員、武田委員、田畑委員、中村委員、牧内委員、丸山委員、
水野委員、宮下委員、矢ヶ崎委員
5 市側出席者 母袋上田市長、田口こども未来部長、宮沢保育課長、倉島学校教育課長、
樋口子育て・子育て支援課長、両角保育担当課長補佐、堀内保育担当係長、
津久井放課後こども育成係長、古川子育て・子育て支援担当課長補佐、
堀内子育て・子育て支援担当係長、井出主査
6 公開・非公開等の別 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者 1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日 25年12月18日

協議事項等

- 1 開 会
2 あいさつ (母袋市長)
3 人事通知書の交付
4 委員紹介
5 事務局紹介
6 上田市子ども・子育て会議について【資料1】
7 会長・副会長の選出
・上田市子ども・子育て会議条例第4条に基づき、委員の互選により選出。
・会長に金山委員、副会長に堀江委員を選出した。
8 議事 (進行 金山会長)
(1) 子ども・子育て支援新制度及び上田市子ども・子育て支援事業計画について【資料2.3】

質疑
(委 員):【資料2】P1-4「給付及び事業の概要」-(1)「子ども・子育て支援給付」にある認定証の交付について、の施設型給付だけに認定証を交付するのか、の地域型保育給付についても認定証の交付をするのか。
(事務局): ともに認定証を交付する。

(委 員):【資料2】P1-4「給付及び事業の概要」-(2)「地域子ども・子育て支援事業」について、上田市における実施状況を教えてください。
(事務局): ~ については、上田市において実施済みである。 ~ は新規事業である。
「養育支援訪問事業・子どもを守る地域ネットワーク強化事業」は、要保護児童対策地域協議会として実施している。
「利用者支援事業」は、類似事業を「子育てひろば」や「子育て支援センター」において実施しているものの、今後、国がどのような基準を策定・実施するかは決まっていない。
モデルケースとしては、千葉県松戸市や神奈川県横浜市が実施する総合案内・コンシェルジュ事業を想定している。
「実施徴収に係る補足給付を行う事業」は、就学援助費による対応を想定している。
「多様な主体が本制度に参入することを促進する事業」は、今後の国の動向による。

(2) ニーズ調査について【資料4.4-2.4-3.5】

質疑

- (委 員):【資料4-2】(就学前児童用アンケート案)P11-「問21-1」に「ファミリー・サポート・センターを利用した」との設問があるが、病児の受け入れは実施しているのか。

(事務局): 上田市では実施していない。

(委員): 上田市社会福祉協議会が上田市からの委託事業で実施している。サービスの提供会員は一般市民であることから、現状では病児や障害のある児童のサポート(お預かり)は実施していない。

(委員):【資料 4-2】(就学前児童用アンケート案) P13 - 「問 25」から「問 28」は、放課後児童対策について質問している。

施設は 2 種あり、放課後児童クラブ又は学童保育所がある。利用料金・内容等のサービスに差があることを周知しなければならない。

(委員): 料金については、他の設問についても記載されていない。また、この設問は、国が作成した必須の設問であることから、上田市だけが金額等を記載することは一概に良いとは思えない。

(委員): パート勤務であるが、現在のところ放課後児童クラブを利用することは考えていない。今後は料金の統一などを検討すべきと考える。しかしながら、このアンケートについては、料金の記載がなくても利用したいと考える人は記入すると思う。

(委員): 国においても審議されたが、このアンケートに利用料金を記載するとアンケート自体の量が膨大になることが懸念される。

(委員):【資料 4-2】(就学前児童用アンケート案) P1 - 「問 1」の小学校区について、回答者は迷うことなく記入できるか疑問に思う。

住んでいる地区がどこの小学校区にあてはまるのかを把握していない保護者が多いと思う。最初の設問でつまづいてしまうと思う。

(委員): 転居して間もない場合や住んでいる場所の近くに小学校が 2 校ある場合等、小学校区の把握が出来ていない方がいると思う。

(委員): アンケートの回収率をあげるため、このアンケートの重要性を子育て中のお父さん・お母さんに理解していただくことが大切と考える。

このアンケートが子育ての環境をより良くするチャンスであることを伝え、広く意見をいただくためにも、市の広報や保育園等へアンケートの実施について周知するポスターの掲示を検討いただきたい。

(委員): 地域が違う小学校 2 校に子どもを通わせた経験から、アンケート対象者の無作為抽出を行う際に、地域のバランスを考慮いただきたい。

(事務局): アンケート対象者の抽出は無作為抽出であるが、地域性と年齢を考慮して行ないたい。郵送による配布と回収を行うが、回収率 50 パーセントを目標としたい。アンケートへの理解を深めていただくためにも新制度周知のリーフレットなどの同封を検討したい。

(委員): 回収率を上げるには、より答えやすい設問とするように希望する。

問 1 についてなぜ、小学校区を選ばないといけないのか。上田、丸子、真田、武石の各 4 地域でもいいのではないか。

アンケートに最後まで答えてもらう工夫を検討して欲しい。

(事務局): 今後必要とする「保育の量の見込み」と「その確保」を検討するにあたり、保育課としては小学校区とした。

(3) その他

(委員): 県立子ども病院から退院した子どもへの支援をする機関が存在しない。子育てに安心できる地域となって欲しい。

: 母子手帳は子どもの成長のカルテと考える。母親のものだけではなく地域のものという視点が必要と考える。

(委員): 地域における特別なニーズを持つ子どもの現状がなかなか見えてこない状況がある。すべての子どもに必要な支援が行き届くようにして欲しい。

9. 事務連絡

10. 閉会